

歩道橋撤去による歩道空間の改善について

1. はじめに

都内に現存する多くの歩道橋は、高度経済成長期に集中的に建設され、今後一斉に老朽化することにより、維持管理費の増大が懸念される。一方で歩道橋は、歩行者の安全対策として大きな役割を果たしてきたものの、近年は少子高齢化の進行により、利用者が減少してきている上、バリアフリー化を求める声が高まるなど、歩道橋を取り巻く環境は大きく変化してきている。これらを踏まえ、第六建設事務所では、平成 20 年の建設局通知「横断歩道橋の取扱いについての基本方針（改定）」に基づく交通管理者、地元自治体の合意等一定の条件を満たした歩道橋について撤去を進め、歩道空間の改善を図っている。

今回は、歩道橋撤去により歩道空間が改善された事例として、今年度完了した目白台歩道橋の撤去工事について報告する。

2. 歩道橋の概要と撤去の経緯

目白台歩道橋（昭和 43 年架設）は、主要地方道第 8 号（目白通り）の文京区目白台一丁目と文京区道と交差する位置にある歩道橋（図-1、写真-1）である。周辺には、日本女子大学や平成 21 年に開園した目白台運動公園が立地していることから歩行者が多く、歩道が狭隘である歩道橋付近は、すれ違いが困難な状況（写真-2）となっていた。さらに、歩道橋を利用せずに、目白通りを乱横断している歩行者が少なからず有ることが確認された。

そのような状況の中、地元町会や大学から歩道橋の撤去要望を受け、当事務所にて状況調査を行い、道路管理者として総合的に勘案した結果、歩行者の安全を確保するため本歩道橋を撤去し、代替機能として横断歩道を設置することとした。

3. 撤去工事に伴う課題と対応策

① 地元協議の難航（写真-3）

警察との設計協議では、新たに設置する横断歩道を利用する歩行者の安全性を確保するため、区道の停止線位置を前方に移設し、都道への車両の進入速度を抑制させることが、横断歩道及び信号機の設置条件として示されたが、現在の停止線位置は、過去に私道から区道に出てくる歩行者と区道を走行する車両との接触事故が発生したことをきっかけに、地元町会の強い要望で、現状の位置に停止線を後退させた経緯があり、再び前方に移設することについて、地元町会が難色を示した。

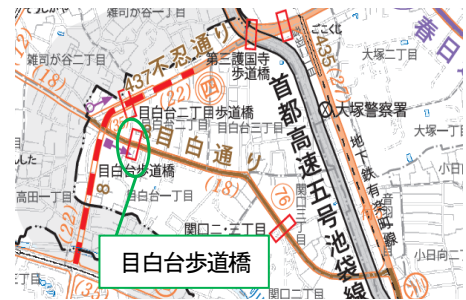


図-1 案内図



写真-1 撤去前

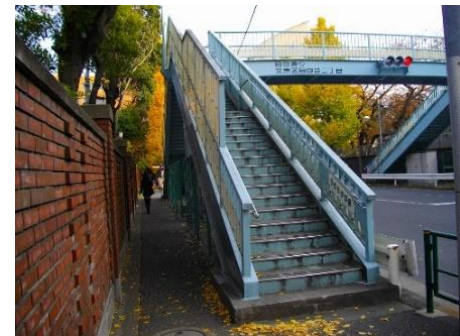


写真-2 歩道狭隘部

② コロナ禍での工事日程調整

新型コロナウイルス感染症の影響により、歩道橋に隣接する日本女子大学では、4月は休校、5月以降は当分オンライン授業となった。通常授業の際は、狭い歩道（写真-2）を多くの学生が通るため、学生が登校しないこの期間内に工事を完了させてほしいと大学側から要望を受けた。しかし、歩道橋撤去後の横断歩道設置計画について①で述べたように、地元の一部から反対の声があり、警察協議に遅れが出ていた。

以上①, ②のことから、文京区及び区道の隣接民地である大学等と協議を重ね、区道の路側帯に車線分離標を設置することと路肩の側溝を一部改良して、民地の一部を歩行可能とすることで区道歩行者の歩行スペースを確保し、安全性を高めることができた。（写真-4）これにより、停止線を前方に移設することについて地元町会から理解を得られたことで、警察との設計協議が完了し、大学のオンライン授業期間中に撤去を完了させることができた。

③ 撤去のスマート化（写真-5）

歩道橋の撤去にあたっては、目白通りを一時的に全面通行止めする必要があり、交通量の比較的少ない土曜日の夜間に実施した。通行止め時間を短縮するために、ベントを設置し桁を2分割にして撤去を行うことで、小型クレーンを採用することができ、作業帯の最小化及び全面通行止め時間を約5分間に抑えることができた。

また、歩道橋北側に隣接する大学キャンパス内には、明治時代に建造され文京区の指定有形文化財にも登録されている「成瀬記念講堂」と「旧成瀬仁蔵住宅」があり、振動への配慮が必要であった。さらに、近隣住民から作業時における騒音低減の強い要望があった。したがって、振動、騒音が特に発生しやすい基礎コンクリートの取り壊し作業では、圧碎機やブレイカを使用せず、コアドリルによる削孔を採用することで対策を図った。

これらの対策を行うことで、苦情等による工事の中断も無く、円滑に撤去作業を完了させることができた。

4. おわりに

歩道橋撤去前は、非常に狭隘であった階段横の歩道は、幅員が1.0mから3.0mに広がり、歩行者や車いす利用者にとってより安全な空間にすることができた。

以上のことから、新たな施設を整備するという方法ではなく、歩道橋の撤去という既存の構造物をなくす方法によって、歩道利用者の安全性及び快適性をさらに高めることができた。

横断歩道橋の撤去は、社会情勢の変化に伴う歩道空間の改善要請や、維持管理費用の抑制等を考慮すると、今後も継続的に行われると思われる。今回、目白台歩道橋の撤去を行うにあたって、地元町会や警察など多方面との調整や、実際に撤去する際の手順等様々な課題を解決する必要があった。横断歩道橋撤去時における課題は、立地条件等が各々異なることから、一概に同じ方法が使えるとは限らないが、今回の事例が他工事の参考になれば幸いである。



写真-3 区道部(停止線前方移設前)



写真-4 区道部(停止線前方移設後)

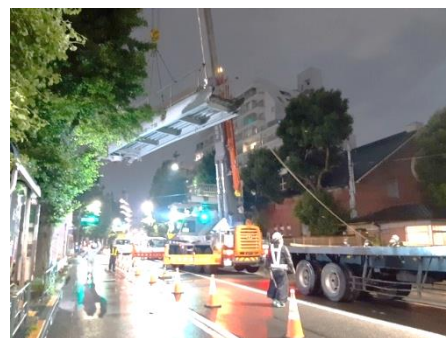


写真-5 歩道橋撤去作業



写真-6 撤去後